高岡発
瓦版
2018.3

TAKAOKA

まちも、ものづくりも、ライバルはご先祖様

技術継承の処方箋!

- 平成の御車山、ついにこの春完成。
- 高岡独自の取組み。

PRESS RELEASE

TOPICS 重伝建地区で移住体験！
「高岡市場街通信」発刊！

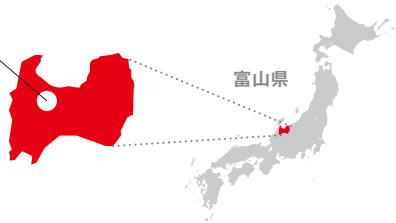
時を重ねた手わざの粋、次世代につなげるための取組みとは。

町民文化の象徴·御車山を今を生きる人の手で新たに創る。

ユネスコ無形文化遺産にも登録された高岡御車山祭の「御車山（みくるまやま）」は、高岡400年の歴史と職人たちの高い工芸技術、そしてまちの人たちの富や誇りを体現する高岡の貴重な財産です。毎年5月1日には、まちごとに装飾の異なる7基の山車がまちを練り歩きます。この御車山の現代版を、今の時代の市民の力を集めて1から創り、若手の技術継承の場にもしようと、平成25年度(2013年)から5カ年にわたって制作が進められてきました。その新しい御車山「平成の御車山」が、ついに完成のときを迎えます。詳細や、このほか高岡の伝統技術を守り伝えていくために行っている、ユニークな取組みをご紹介します。

高岡のものづくりと加賀前田家

富山県高岡市は人口約175,000人の県西部の中核都市。加賀前田家二代当主・前田利長公が開町し、7人の腕利きの鋳物師やさまざまな職人を招き、ものづくりを奨励しました。今では高岡銅器・高岡漆器・越中福岡の菅笠が国の伝統的工芸品となっており、伝統の技を活かしたものづくりが今も盛んに行われています。



平成の御車山、ついにこの春完成。

人間国宝も若手職人も、一般市民も参加して。

「平成の御車山」の制作は、これまで400年以上にわたり高岡で受け継がれてきた伝統と技術を次世代に伝え、未来への発展を示すシンボルとするために企画されました。一般公募で集まった意見に基づいてデザインされ、総制作費3億円の約1/3は寄付によって集められました。制作に携わるのは、監修を行う人間国宝の大澤光民氏をはじめ、高岡地域を中心とする伝統産業技術者で組織する「高岡地域文化財等修理協会」。制作には、多くの若い職人も修行の一環として関わりました。4月30日(月)に高岡御車山会館で完成披露され、以後同会館で常設展示されます。

鉾留（ほこどめ）

木彫の鳳凰に漆を塗り金箔を貼ったもの。高岡の地名の由来である漢詩の一節「鳳凰鳴けり、彼の高き岡に」より。

花傘

和紙を貼り重ねて菊の花を表現する花傘づくりには、のべ200人以上の市民ボランティアが参加した。

本座

神が降臨する形代（よりしろ）とされる。高岡の開祖・前田利長公と正室の永姫。

標旗（ひょうき）

竿には青貝塗（薄く切り取った貝殻を使用して模様をつける高岡漆器の技法）を施している。

相座（あいざ）

利長唯一の実子、満姫（まんひめ）。からくり人形になっている。

高欄・後塀の彫刻

井波彫刻の技術により、高岡に育つ四季折々の植物（透かし彫り）や鳳凰の家族・龍（立体彫り）を表現。

幔幕（まんまく）

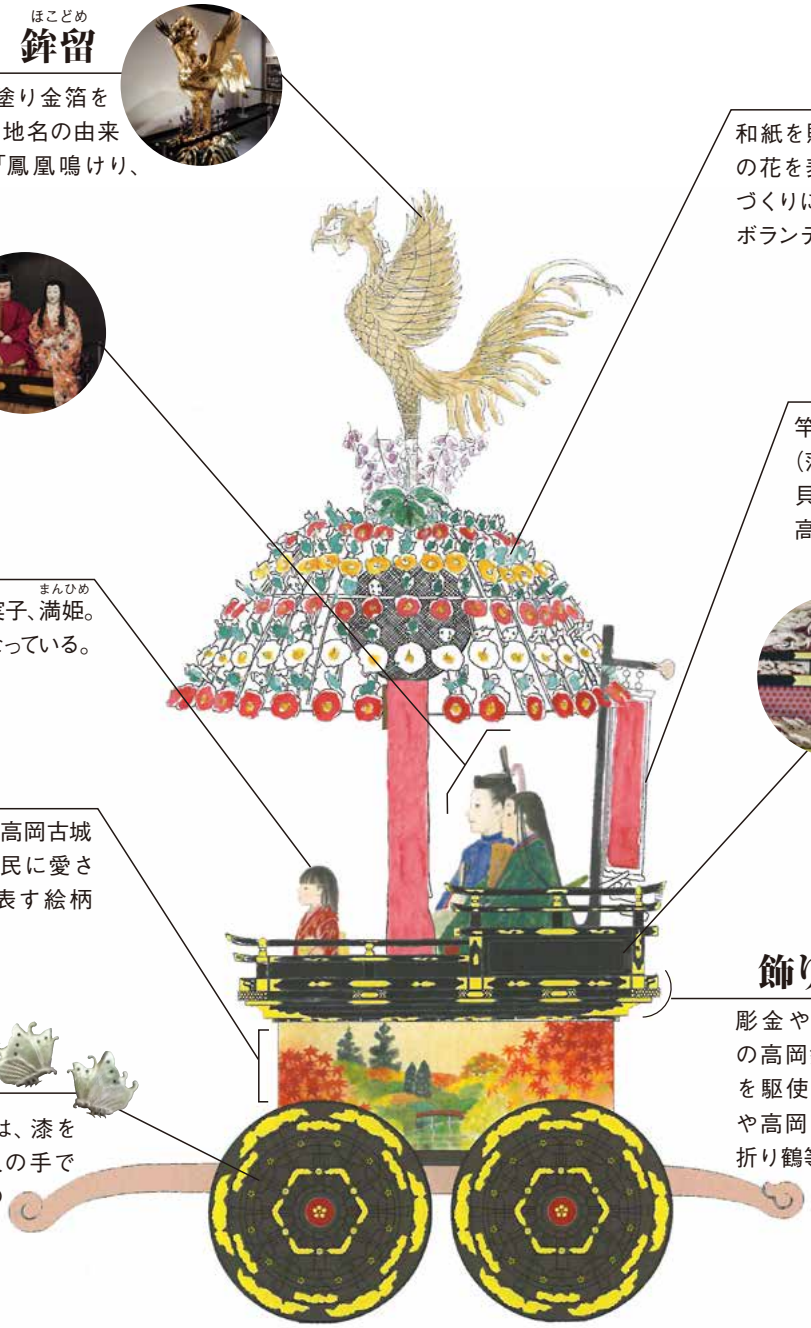
現在は公園（高岡古城公園）として市民に愛されている高岡城跡の四季を表す絵柄が各側面に描かれている。

飾り金具

彫金や鋳物などの高岡銅器の技術を駆使し、自然の模様や高岡の動植物などを表現。まり、折り鶴等満姫の遊び道具も。

車輪

車輪や轅（ながえ）には、漆を塗った上に職人の手で精緻に造られた蝶や桜などの金具が装飾されている。



高岡御車山祭とは

前田利長が高岡開町の際、父・利家が豊臣秀吉から拝領した御所車を高岡の町民に与えたのが始まりとされる。金工・漆芸・染織など優れた工芸技術で装飾された山車は“動く美術館”ともいわれる。

独自の取り組み、子どもから大人まで。

高岡市が手がける、全国的にもユニークな技術・文化継承のための“処方箋”を紹介します。

NO.1 ものづくり・デザイン科

高岡市では、「ものづくり・デザイン科」の授業をふるさと教育の一環として、2006年から市内小・中・特別支援学校全39校で、小学5､6年生、中学1年生を対象に行っています。職人が学校に出向いたり、児童生徒が工房を訪れたり、児童生徒が優れた職人の技を肌で感じることができる取組みです。高岡の伝統工芸である漆器や銅器のほか、地元産品の菅細工や藁細工など地域性を生かした内容も。「生まれ育ったまちの伝統工芸や歴史に触れるよい取組み」等、保護者の9割以上が「教育的効果が高い」と評価。この授業がきっかけで、市内のものづくり企業に就職したという事例も。全国からの視察が多々あるなど注目を集めています。

毎年、職人の指導のもとで作品を作ります。職人との交流のなかでその熱い思いや生き方に触れることも、大きな教育的効果の1つです。

NO.2 高岡市デザイン・工芸センター

新クラフト産業育成事業でこれまでに生まれた商品サンプル例。参加企業が自らデザイン・試作に取り組んでいます。

「新クラフト産業・デザインの育成」「伝統工芸の保存・継承」「デザイン・工芸の啓発・普及」を活動の柱に、デザイン・工芸の振興を図る高岡市の施設です。2017年度末で50周年を迎えた「高岡市伝統工芸産業人材養成スクール事業」は、重要無形文化財保持者をはじめ、伝統工芸士や工芸作家など、優れた人材を多数輩出しており、これまでの修了生は1050名にのぼります。また、「新クラフト産業育成事業」では、伝統工芸産業界の新分野開拓を目的に、市場競争力を高めるための新商品開発プロジェクトを2～3年ごとにテーマを変えて実施しています。

TOPICS

News!

鋳物職人を目指す人にオススメ！

重伝建地区で移住体験！2018年5月オープン。

日本で唯一「鋳物師町」として、国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に指定されている高岡鋳物発祥の地・金屋町に、町家を活用した移住体験施設「さまのこハウス」が2018年5月にオープンします。金屋町は石畳と千本格子の古い家々が調和し、タイムスリップしたかのような美しい街並みです。駅や教育機関、病院やお店も近隣にあり、暮らすにも大変便利なところです。新しくオープンする施設には母屋と新築棟を合わせて5つの客室があり、1階には若手職人の作品展示とコミュニティスペースを兼ねた土間ギャラリーが設置されています。高岡鋳物発祥の地で鋳物の仕事に携わりたいという人をはじめ、金屋町での暮らしを体験してみたいという人にも利用していただき、まちの人と外から来る人との交流を促すことを目的としています。

改装途中の施設内の様子。昔ながらの町家の佇まいを残しながら、美しく生まれ変わります。

お問合せ　NPO法人金屋町元気プロジェクト事務局（高岡市鋳物資料館内）
0766-28-6088（休館日：火曜。火曜が祝日の場合はその翌日）

Release

フリーペーパー 高岡市場街通信 が発刊されました！

高岡発定期便「高岡市場街通信 ~ものづくりの町が届ける高岡クラフト定期便~」

高岡クラフト市場街に関する情報や、季節ごとの高岡のローカルな魅力をお伝えしていくタブロイド版フリーペーパー「高岡市場街通信」が発刊！第１号では昨年の様子や高岡の町の様子がよくわかるコラムなど、読み応え満載です。まだ知らない高岡の魅力を再発見してね。

高岡クラフト市場街 2018の開催日：9月21日（金）～24日（月・祝）

主な配布場所：高岡市内。ご希望の方には無料でお送りいたします！
次号の発行日については、http://ichibamachi.jpで、ご案内致します！

発行者・お問合せ　高岡クラフト市場街実行委員会 0766-23-5000 info@ichibamachi.jp

◎貴媒体でのご紹介・ご取材をご検討いただきますよう、お願いいたします。

富山県 高岡市
取材のお問合せ（プロモーション担当）：有限会社エピファニーワークス

tel. 0766-54-6210　fax.0766-73-6886　info@epiphanyworks.net
担当：荻布（おぎの）yuko@epiphanyworks.net、林口　sari@epiphanyworks.net